

3つしかって 7つほめる」その2

「花風屋」に来る子どもたちの目的を大きく分けると、「買い物に来る」と「託児を利用する」です。

買い物に来る子どもは、子ども同士だったり、身内に連れられて来店します。お父さんやお母さん、祖父母と一緒にの時はちゃんと身内の大人が

「手に取ったものは元に戻しなさい」「走り回ったらダメ」「ちゃんと挨拶しようね」というように、注意してくれたり、教えてくれるので大助かりです。

でも、子ども同士になると『勝手気ままに』の振る舞いをするのも多々あって、下宿人おしかり隊やスタッフの口が忙しくなります。しかられた子ども第一号は、お支払いの時に二十円をテーブルの上に放り投げた女の子。

すかさず、私」どつてお金を投げるの?」「Dさん」お金を投げたらダメでしょう」「私」私の手のひらに乗せてね。ハイ、やり直し」

女の子、ちゃんと私の手のひらに乗せる。Dさん「ちゃんとできたね。偉いねえ」私「今度からは、このように渡してね」この子は素直な子だ

つたようで、今度の時はちゃんと私の手の平に静かに乗せてくれました。

しかられた第二号は、しよっちゅうお店に顔を出していた小学生の男の子です。ある日のこと、気が付いたらレジカウンターの入り口でレジを打つマネをしていました。

「何をしてるの!」この中には入らないというお約束だったでしょう」

「冗談、冗談だよー」憎たらしいこと、に節まで付けて、



NPO法人在宅生活支援
サービスホーム花風

木村美和子理事長

花風屋繁盛記

連載22

人と人がつながって

悪いなんてこれっぽっちも思っていない態度。「冗談じゃありません。約束を守らない子は、花風屋」三日間出入り禁止です。その間、ど

しかってよかった!」

「もつと大きな声で!」

「花風屋」が開店して半年もたつころに

「売れません」

うしてしかられたのかをよーく考えなさい。それと、お母さんとお父さんにこのことを話さない!」

蚊の泣くような小さい声で「分かった」と応える男の子に、いつの間にかそばに来ていたDさん、

「悪い子なんていないよ。悪いのはしかれた遊びに来ていいですか?」

「ごめんね。こはね、百円玉を握って悩みまくる楽しみを売る店なの。高い物を買うときは、大人のひと一緒に来てね」

心配しているうちに三日がたちました。「こんにちは」

「近ごろ、逆ギレする親もいるのに、大したもんだ」

そんなおなじみさんの中であって、異彩を放ったのは千円のブランドバッグと二十円のクジを千円分お買い上げしようとした、小学生の女の子です。



「花風屋」のサービスの一つ「託児」。託児の子に対しても、もちろん正しく大きな愛情を